

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

至誠中学校区	校番19	福山市立熊野小学校
最終更新日		2021年(令和3年)2月22日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学び合う力	
<ul style="list-style-type: none"> 至誠中学校区3校の教育活動が、校区全体に共有化され、地域と共に子どもを育てる環境を整備する。 学校に登校できにくい児童・生徒を学校だけではなく地域全体で見守り、支える組織づくりを行う。 主体的な学びづくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己有用感が低い児童・生徒もいる。 基礎学力の定着や主体的な学習習慣の確立と活用力及び基礎体力に課題がある。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	主体的に課題を発見し、協働して解決することができる子ども	
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくり：めざす子ども像の実現に向けて、各校の授業公開を通して協議し、「子ども主体の学びづくり」の充実を目指す。 小・中学生との交流：小中学校合同行事(挨拶運動、絵本の読み聞かせ等)の開催 	

III 自校

<p>ミッション</p> <p>確かな学力・豊かな心・健やかな体をもつ児童を育成し、保護者・地域に信頼される学校</p>	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力	コミュニケーション力	粘り強さ	
<p>学校教育目標</p> <p>くじけず まなび のびやかに 元気いっぱい熊野っ子の育成</p>	めざす子ども像	1・2年	身近な生活体験から、自分の課題に気付いている。	友だちの話をうなずきながら聞き、自分の考えを最後まで伝えている。	自分でやると決めたことやみんなですると決めたことを最後までやり通している。
<p>現状</p> <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 見通しがもてると、主体的に取り組む児童が多い。 授業で考えることが面白いに「当てはまる」と回答した児童は、74.5%である。 ●自分の考えは認められているに「当てはまる」と回答した児童は、64.5%である。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童とともに課題解決にむけて単元計画を考えることで、学習の見通しをもつことができた。 ●教師主導で進行する授業の割合が高く、「子ども主体の学び」について子どもの学ぶ姿から問い直し、理論と実践をつないでいく。 		3・4年	課題解決の場面において、自己の課題に適した改善策を考えている。	自分の考えと友だちの考えを類似、相違の立場で比べて聞いている。	あきらめずに、挑戦している。
		5・6年	自己課題解決への計画、実践、評価、改善を繰り返している。	友だちの考えに質問やアドバイスをしたり、自分の考えを相手が納得できるように伝えたりして、互いに認め合っている。	自分で目標を立て、主体的に目標達成にむけて行動している。
	研究	教科等	道徳・総合的な学習の時間		
		主題・内容等	主体的に学ぶ子どもの育成		
	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分で課題を見つけ、課題に向けて取り組んでいる。 疑問に思うことなどを表現し、そこから対話が始まっている。 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立熊野小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 ⁷ 評 価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 ⁷ 評 価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	主体的に学ぶ 児童の育成		新規	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが、自ら課題を見つけ、解決する単元、授業づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思うことなどを表現し、対話により考えを深めるための単元開発、発問の工夫をする 家庭での学びを単元の一部として取り入れる家庭学習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「授業で考えることがおもしろい」肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □肯定的評価低学年82%、中学年83%、高学年45%であった。学年が上がるにつれて自己肯定感が低くなる傾向がある。間違いを恐れるあまり意見を出し合い学ぼうとする意欲をもちにくい。 □家庭学習は実施予定を含め教師の肯定的評価は100%であった。 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を図り「できる」を積み重ねながら、子どもの疑問やつぶやきから授業づくりを行っていく。 単元計画シートを作成し、学校(みんな)で作成しと家庭(一人)であることを明確にし、計画的に実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> □肯定的評価は、82.8%であった。 ◎児童が、自分たちで授業のゴールや内容を話し合ったことで、授業への意欲を高めることができた。 ◎単元計画シートを作成し互いの授業を見合ったことで、様々な教科の単元づくりや、家庭での学びを交流できた。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 単元のまとまりの中で、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考える。 ICTを授業や家庭学習に取り入れ活用できるよう、校内研修の充実を図る。
				★	新規	<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の学びについて理論と実践をつなぐ研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿から「学ぶとは」について協議する。(金曜定例) 	<ul style="list-style-type: none"> 教師アンケート「授業交流の回数と内容に満足している」肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □肯定的評価100%であった。互いの授業内容やクラスの様子を交流し、「主体的に学ぶ」とは協議したり、良さや改善点をまとめたりすることができた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、研修を行い、みんなで一つの授業を考え、実践・振り返りをするなどして、共通の目標をもって「子ども主体の学び」を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> □肯定的評価100%であった。 ◎1つの授業を教員みんなで作り成果や課題を交流することで、共通の目標をもつことができた。 	4	4
1	自己実現に向けて未来を切り拓く子どもの育成		新規	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分で考える・決める・選ぶことを習慣化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に判断し、行動する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「主体的に判断し、行動している」肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □肯定的評価78.0%であった。6年生が主体となり、ミニ文化祭を企画、運営するなどした。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの学級で、生活課題を改善・向上していくよう話し合いを行い、自分たちで決めたことを実行できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> □肯定的評価90.3%であった。 ◎児童会が中心となり、よりよく生活するための「生活のきまり」を児童同士で考えたり、各学級で話し合ったりできた。 	3	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 行事や生活場面で、主体的に考え、行動することができる場面や機会を設ける。
1	児童・保護者に信頼される学校	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> 迅速な情報共有と計画的な取組を確実に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 協議内容の記録化と全職員へ周知する。 生徒指導・保護者対応では、役割を明確にし、解決に向けた方向性を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「わが子は、楽しく学校に通っている。」肯定的評価90%以上 児童アンケート「学校が楽しい」肯定的評価90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □肯定的評価は、90.6%であった。日頃から、家庭と丁寧に関連することができた。 □肯定的評価は、82.7%であった。常に職員で情報を共有し、対応している。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 学期1回の児童・保護者アンケートをもとに、組織的に情報を共有しながら、児童・保護者の思いに寄り添った取組をする。 生徒指導の情報を職員間で共有し、組織的に迅速な取組を行う。また、月1回の生徒指導委員会において、対応の方向性の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □肯定的評価は、94.8%であった。 ◎日頃から、家庭と丁寧に関連することができた。 □肯定的評価は、89.8%であった。 ◎常に職員で情報を共有し、対応している。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童が学校へ楽しく通うことができるよう、「子ども主体の学びづくり」について校内研修の充実を図っていく。また、児童の情報を職員全体で共有して、児童が円滑な人間関係を作れるよう組織的な対応を心がける。